

研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 1	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Wine, liquor, beer, and mortality. ワイン、蒸留酒、ビールと死亡率	
執筆者	
Klatsky AL, Friedman GD, Armstrong MA, Kipp H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2003 Sep 15;158(6):585-95.	
キーワード	
アルコール、死亡率、リスク、ワイン、ビール、蒸留酒	
要 旨	
<p>多量にアルコール飲料を摂取する人にとってそのリスクの増加と適量飲酒の人のリスクの減少は J 型のアルコールー死亡率曲線を描くことが知られている。限られたデータの中ではワインを好む飲酒者がそれ以外のアルコール飲料、ビールや蒸留酒を摂取する人よりも死亡率が少ないことが示唆されている。これらの関連を明らかにするために、本研究では北カリフォルニアにおける健康保護プログラムに参加した人たちを対象としてコホート研究を実施した。1978-1985 の間に健康評価を実施した 128,934 人から集めた人口統計と経歴データを用い、その後の死亡は自動的関連システムを用いて突き止めた。8つの共変量をもつコックス比率危険モデルを全アルコール摂取量、ワイン（摂取するワインの種類）、ビール、蒸留酒の 1 週間における摂取日数との関連リスク評価を明らかにするために用いた。アルコール摂取量と死亡率の J 型カーブは 20 年間安定していた。これとは独立して、ワイン摂取の頻度は死亡率の低さと関係しており、多くは心臓病のリスクが低いためであると考えられた。同様なリスクの減少は赤ワイン、白ワイン、他のタイプのワイン、ワインの種類組み合わせにも関連していた。ワイン摂取者の低い死亡率はその摂取量や喫煙歴などにも関連していた。</p> <p>以上の結果からワインの種類にかかわらず、ワイン飲酒者はビールや他の蒸留酒を飲む人に比べ死亡リスクは低くなった。しかし、このリスクの減少は非アルコール性のワイン成分に寄るものか否か、また摂取パターンとの関連性はあるか、その関連する特徴は何かなどについては明らかになっておらず、今後の研究が必要である。</p>	